

令和8年度 経済委員会 所管事務調査報告書

【調査目的】

取水地や貯水槽、送水管など関連施設の設置・運営の現状や施設更新計画、水道料金体系の現状及び今後の改定に向けた取り組などについて調査を行い、事業の安定化と持続的な運営に向けた共通課題の把握を図る。

また、今回の視察先である類似団体における現状や実態を調査し、汚水処理の方向性に関する情報共有を行うことで、今後の公営企業としての経営戦略及び事業推進に資するものとする。

【調査実施日】 令和8年4月23日(木)、24日(金)

【実施場所】 大宜味村、渡名喜村

【経済委員】 山下義雄委員長、上盛政秀副委員長、山盛力委員、加屋本真一委員、  
前津芳生委員  
大久研一議長 事務局随員：前元淳子

【行程】

4/22(水)	移動日		
4/23(木)	8:50	ホテルロビー集合	
	9:00~9:30	移動	
	9:30~11:00	大宜味村役場	建設環境課
	11:00~17:00	視察・昼食・移動	・喜如嘉小学校 ・芭蕉布会館 ・沖縄科学技術大学院大学
4/24(金)	8:15	ホテルロビー集合	
	8:15~8:30	移動	
	9:00~10:55	フェリー	
	11:00~12:00	渡名喜村役場	経済課
	12:00~12:45	昼食	
	13:00~13:30	海水淡水化施設	民生課 委託事業社
	13:30~14:00	農業集落排水施設視察	委託事業社
	14:00~15:00	集落内視察	渡名喜村議会
15:35~17:30	フェリー		
4/25(土)	移動日		

## 大宜味村（簡易水道事業、特定環境保全公共下水道事業）

### 1. 大宜味村簡易水道事業経営戦略

#### ◆経営戦略の取り組みについて

水道料金の集金業務を民間に委託している。（料金支払いのため外出が困難な世帯については、検針時に合わせて集金を行なっている。徴収率は80%である。

また、浄水場やポンプ場等の施設点検・維持管理業務についても民間委託を利用し、業務効率化と経費削減に努めている。

#### ◆料金体系の考え方及び改定検討について

平成18年度及び平成26年度に料金改定を実施し、水道料金の増額を行ったものの、経営状況は依然として厳しい。給水人口はピークを過ぎ、減少傾向にある。

今後も人口減少や節水意識の浸透、節水器具の普及が進むことが予測されるなか、経営戦略上、いかに徴収率を向上させるかが喫緊の課題となっている。

施設の維持・修繕に伴い料金改定の必要性も検討されているが、物価高騰下に置いて水道料金を引き上げることは住民生活への影響が大きいことから、改定の見通しは厳しい状況である。

#### ◆一般会計繰入金の状況について

現状では、水道料金収入のみで事業運営を行うことは困難であり、一般会計からの繰入金に依存している。100%の独立採算制による運営は難しい状況である。

#### ◆関連施設の老朽化対策について

配水池12施設、ポンプ場12箇所を有しており、令和4年度に策定した計画に基づき、令和5年度から令和12年度にかけて補修工事を実施している。総事業費は約8億5千万円で、管路や設備の更新等に充てられる。

#### ◆組織体制について

建設環境課長1人、水道係長1人、水道技師1人、会計年度任用職員3人の計6人体制で運営している。業務量の増加や業務内容の複雑化により人員増が望まれるものの、行政改革の動向を踏まえると、増員は厳しい状況にある。



## 2. 大宜味村下水道事業経営戦略(特定環境保全公共下水道事業)

### ◆下水処理施設について

村全域ではなく、埋め立て造成された結の浜地区一帯を対象とする施設である。広域化、共同化は未実施であり、最適化については将来的な大規模更新時期に合わせて検討する予定としている。

### ◆組織体制について

建設環境課課長1人、建設係長1人、係員1人、道路係長1人、係員1人、環境水道係長1人、係員2人(うち特定環境保全公共下水道事業担当1人(兼務))の体制となっている。

### ◆民間活用について

維持管理業務、水質検査、汚泥運搬処理業務等を民間委託している。

### ◆将来の事業環境について

結の浜地区では定住促進を目的に宅地分譲やアパート建設を進めているが、土地利用の容量や計画人口を踏まえると、大幅な人口増加は見込まれていない。また、水洗化率及び下水道接続率はともに100%を達成しており、令和6年度の有収率は92%となっている。区域内の開発状況によっては有収水量の増加は見込まれるものの、現時点では大幅な増加は期待できない状況である。施設は県内でも比較的新しい部類に入るが、共用開始から14年が経過しており、機械設備等の老朽化に伴い、今後は優先順位を付けた計画的な修繕及び更新が必要である。

### ◇その他ご回答いただいた事項

- ・合併浄化槽の普及を推進しているが、普及率は依然として低い状況にある。個人住宅については、補助金を活用し、既存施設の撤去や新設への支援を行なっている。
- ・水源は豊富である一方、河川規模が小さいため、利用可能な水質まで処理するにはコストがかかる。現在利用している水源は比較的低コストで活用できている。
- ・浄水場が1箇所であることから、複数のポンプ場が必要となっている。
- ・ダムの水は中南部へ送水されている。
- ・渇水での断水はないが、自然災害による断水は発生している。
- ・農業用水については、かつて簡易水道で使用していた施設を活用している。村全体としての新規整備計画はない。



## 渡名喜村役場（農業集落排水事業、海水淡水化事業）

### 1. 農業集落排水事業の現状

#### ◆共用状況について

平成10年度より供用を開始し、現在まで29年間運用されている。水洗化率100%を維持している。

#### ◆施設の課題について

平成30年度に管路内部調査を実施した結果、フクギの根がマンホールや管路の継ぎ手部分から侵入し、管路閉塞を引き起こしていることが確認された。また、井戸付近の排水口が雨水経路に繋がっている箇所があり、雨水流入による汚水処理量の増加や、枝葉などの流入による機器故障が課題となっている。

#### ◆図面管理について

道路管理を一元化するための情報が不足しており、排水管配置図面の電子化が急務となっている。

#### ◆施設概要について

中継ポンプ(発電機)は4カ所に設置されている。

#### ◆将来的な処理料について

公共工事関連による一時的な増加はあったものの、全体としては人口減少に伴い汚水処理量は緩やかに減少傾向にある。

#### ◆施設監視体制について

委託業者による定期点検が行われている。職員不在時に施設異常が発生した場合は、警告灯が点灯する仕組みとなっており、異常に気づいた住民が通報できる体制が構築されている。



## 2. 海水淡水化施設の現状

### ◆施設整備について

旧施設を解体し、新施設へ更新する工事を実施中であり、現場にて説明を受けた。

### ◆組織体制について

課長 1 名、職員 1 名の計 2 人体制で運営している。

職員 1 人当たりの業務負担が大きく、人事異動により簡易水道事業経験者の確保が難しい状況にある。そのため、限られた人員で効率的な運営を行うため、海水淡水化施設等の維持管理業務及び水質検査業務を民間委託している。

### ◆広域化について

令和 7 年度から広域化により、排水管を除く水道施設(浄水施設、配水池、導水管、送水管)を沖縄県企業局へ移管している。



### 【委員長所見】

竹富町においては、各島々における水道事業及び環境保全に係る下水道事業の運営に多くの課題を抱えている。今回の視察を通じ、水源が豊富な地域であっても、地形条件や施設整備、維持管理など多様な課題が存在することを実感した。

また、地理的条件や人口規模が異なるなか、それぞれの自治体が地域特性に応じた計画的な事業運営を行なっている点は、大いに参考となった。

今後、竹富町においても人口減少が進行するなかで、水道施設の更新や補修需要の増加が見込まれる。今回の調査では、料金体系の見直しや公営企業としての経営手法について多くの示唆を得ることができたため、今後の施策に活かしていきたい。

経済委員会としては、引き続き公営企業経営に係る諸課題の解決に向けた調査研究を進め、安定的な事業運営が図られるよう所管事務調査の充実・強化に努めていく。